

遠まわりをすればするほど おおぜいが楽しめ うまいかな
いことが あればあるほどいろいろな人に役割が生まれる

(by吉田一幸長久手市市長)



地域共生推進全国サミットinながくて（10月18、19日）に参加してきました。介護保険推進サミットから移行した大会で今回が第1回目です。開催の前日には名古屋の介護サービスさくらというNPO法人の事業所を見学しました。

先進地見学



ここでは20以上の事業所が複数の区を跨いで展開されています。介護保険サービスのみならず、障害（児）福祉サービス、子育て支援、高齢者の見守り、サロン、暮らしの助け合い等々多面にわたって支え合いが実践されていました。大会が始まる前の午前中は愛知たいようの杜、4度目の訪問をしました。ここは雑木林の中に特養（新旧）専門学校・幼稚園・デイサービス・古民家・ケアハウス等がありますが、すべて木造です。特養の廊下は庭を囲って回廊になっていて、庭の斜面では保育園児が遊んでいます。廊下のそこそこに車いすに座った高齢者が窓から外を眺めています。赤ちゃんを負ぶって仕事をする職員、若い居候もいました。職員ではない若い人や子どもにも出会い、挨拶を交わしたり声をかけたりとほっこりする所でした。考えるに、特養にしる、有料老人ホームにしる、お世話する人とお世話される人しか居ない構図になっていないでしょうか。



サミット特別企画



冒頭に元官僚の山崎史郎氏の「地域共生社会とは」一何故、それが必要なのか。これから何をなすべきか。一という話を聞きました。2025年問題ではなく、2040年問題を見据えて今から準備をしないといけないこと、認識しました。今はもう生産年齢人口が減っています。2040年には高齢人口も減少に転じるのです。そう、人口減少社会を見据えて政策（若者の結婚・子育て支援・人材不足への対応・空き家対策等）を展開しなければいけないということでした。“人口減少は地域ごとに10年～20年の時差で進行する。”～県内の中で都市部の大分市は先を見据えて早く地域づくりに取り掛かってもらいたいものです。後の祭りになってはいけません。その他シンポジウム、鼎談、充実したものでした。



今回の一連の研修で考えたのは



「いろんな人が生きている。悩み行き詰まっている人もたくさん居る。長久手市長が言っている、まざって暮らすわすらしいまちづくり……10年前に聞いたこのコンセプト。自分の胸の中で思いおこし、施設では世話をされる・するだけが居るのではなく、若者が来たり、地域の人がかたり、と垣根のない施設がいいな。造りは、縁側があると外から人が寄って来れる……。制度に縛られ、介護する側もされる側も幸せでないような気がします。



大分市在宅医療・介護連携支援センターが開設されました！

開設日 平成30年10月1日
 場所 大分郡市医師会内（大分市大字荏隈字庄の原1790番地1, 546-1163）
 開設時間 月曜日～金曜日（8：30～17：00）

相談対象者となるのは？

・ケアマネ、地域包括支援センター、医師、看護師、薬剤師、歯科医師、栄養士、
 など医療・介護に関わる関係者すべてを対象
 相談があれば市民からも受け付ける。

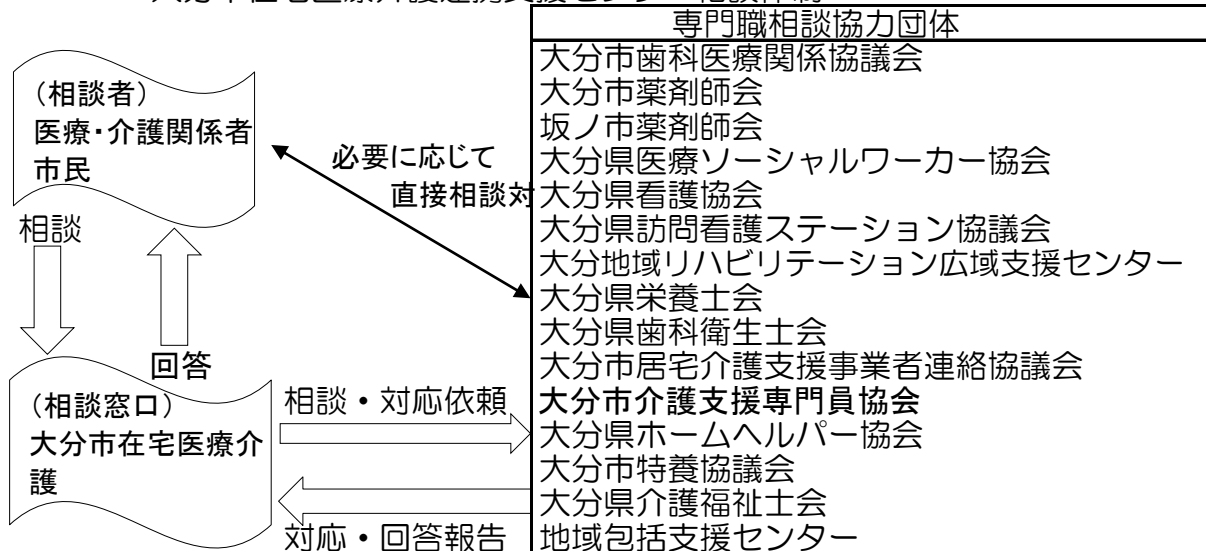
相談内容（例）

- ・在宅での緩和ケアや看取りを積極的に行っている医師を探したいけど見つからない
- ・医療依存度が高い利用者の在宅療養にはどのような準備が必要か相談に乗ってほしい。
- ・ケアマネが一人の職場なので、支援に不安がある。
- ・在宅医療に関する研修を受けたい。
- ・訪問診療や往診を実際に行っている医師を教えてください。
- ・介護保険申請に関する相談
- ・訪問看護との連携について
- ・多職種との連携について
- ・退院支援について
- ・認知症患者の受け入れ調整について
- ・ショートステイやレスパイとに関する相談
- ・日頃の業務の中で困っていること
- ・他職能団体との関係調整



相談のしくみ

大分市在宅医療介護連携支援センター相談体制



【介護に関するお問い合わせ】
 居宅介護支援事業所 スマイルゆい
 ☑住所：〒870-1103 大分市敷戸西町1-3 ミスチャーハウスえん2F
 ☑TEL：097-504-7858 ☑FAX：097-504-7848
 ☑E-MAIL：furumura@wonder.ocn.ne.jp